翻　　訳

アルギュラ・フォン・グルムバッハによる宗教改革的文書(1)

―アルギュラ・フォン・グルムバッハ稿「ヴィルヘルム公宛ての書簡（1523)」「インゴルシュタット議会への書簡（1523)」「フリードリヒ賢公宛ての書簡（1523)」の翻訳―

伊勢田　奈　緒

1．緒言

ここに翻訳したものは、アルギュラ・フォン・グルムバッハによる宗教改革文書のうちの三点である。まず、最初ものは1523年９月20日の『ヴィルヘルム公宛ての書簡』であり、これは先に拙著が翻訳した『インゴルシュタット大学宛ての書簡』[1]の写しに添えられた文書である。ヴィルヘルム公爵とアルギュラ・フォン・グルムバッハは幼馴染として成長したこともあって、手紙の形式は常に敬意を払いながらも、親愛をこめて書かれている。この書簡はインゴルシュタット大学で異端審問されたルター派青年ゼーホーファーの事件から始められていて、公爵の仲裁によってゼーホーファーが司教の手と火刑から救われたことに感謝を表明し、また事件とその理不尽な処置を説明する。その後、現在の聖職者による財政的搾取と不道徳な行状など非道なことが広がっていることを聖書を巧みに用いながら警告している。彼女は公爵を鎖につながれたサルにたとえて、臣民の魂を救うために公爵が神の前で責任ある者としてその大きな悪弊に反対するべきであると強く勧告している。尚、この書簡はバンベルク、シュツットガルト、アウグスブルク、ミュンヘン、エイレンベルクにおいてそれぞれ５版の増刷りがあったことから当時のドイツ人たちが彼女のメッセージに関心を持ち、ある者は共感しある者は反発していたことが窺える。次の文書、『インゴルシュタット議会への書簡』は1523年10月28日付になっていて、同年、アウグスブルクのフィリップ・ウルハルトによって出版されている。この書簡はアルギュラが先に出した『インゴルシュタット大学宛ての書簡』が多くの者に読まれ、その痛烈な大学側への批判やローマ教会に対する非難に対して、瞬く間に彼女に対するさまざまなゴシップや弾劾が巻き起こり、彼女がまさに迫害と死の脅威に曝されている只中で書かれたものであることが文章より読み取れる。彼女は行政官たちに対して「友」として呼びかけながら、約24の聖書のテキストにより、彼らの罪を自覚させ、正しい判断をして誤った者を正当に裁き、しかし、心を頑なにしている者達を罰しないように勧告している。また、女性たちに対して勇気をもって公けに著述する、自分に続く者の出現を期待している。最後は、『フリードリヒ賢公宛ての書簡』であるが、これは1523年12月１日に書かれ、1524年にアウグスブルクのフィリップ・ウルハルトとエアフルトのヴォルフガング・シュトゥマーによって刊行されている。アルギュラはフリードリヒ賢公がルターを支援しているのを知っていたので、この書簡を書いたと考えられる。彼女は帝国議会において貧しく苦しんでいる者たちのために神の言葉を説き明かそうとする説教者たちの擁護を認めることを望んでいる。そして賢公に、救いはすぐそこにまで近づいているので、キリスト者として、臣民を守るという神から与えられた使命を喜びをもって果たすことを懇願している。成る程、帝国議会での賢公の役割は、宗教改革の事柄の主なる支援者として、また、選定候として権威あ

1）　伊勢田奈緒「アルギュラ・フォン・グラムバッハによる―ルター派青年擁護のための抗議文－アルギュラ・フォン・グラムバッハ稿「インゴルシュタット大学宛ての書簡」(1523)」の翻訳－」『環境と経営』（静岡産業大学）第17巻第２号、2011年、103～113ページを参照せよ。

る立場にある故に、間違いなく重要であったと言えよう。政治権力の分析で使われている概念や言い回しにより、彼女は宗教的変革だけでなく、政治的な変革に期待しているようにも思われる。以上、三点の翻訳は、この世の権威－上位行政官の権威－に対する彼女の思想を知ることができる貴重な史料であり、またこの著作が刊行された同年に発行されたルターの『この世の権威について、人はどの程度までこれに対し服従の義務があるか』との関連を見る際にも有益な史料と考えられる。さらにルターの宗教改革運動の展開を知る上でも、またルターの運動が農民戦争へ向かっている時期に書かれた史料としても、これらの書簡は重要なものと考える。

２．翻訳

①『ヴィルヘルム公[2]宛ての書簡』

全てのキリスト教貴族と権威ある者へ、真理と神の言葉とキリスト者の義務を熱心に行うこと、この点に忠実に留まることを熱心に説く、高潔な貴族の女性による一キリスト者の文書[3]

アルギュラ・フォン・シュタウフ

1523年

神に従わないであなた方に従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。（使徒言行録４章）

君主であり貴族である、ラインのパラティンの伯爵で、上部・下部バイエルンの公爵である、敬愛するヴィルヘルム閣下へ

神の恵みと平安と聖霊の働きが閣下と共に、今もまた、永遠にありますように。親愛なる君主様、最近、聖母マリアの誕生祭のイヴに閣下のインゴルシュタット大学において、アルザシウス・ゼーホーファーという名の若者が、長い投獄の後、聖なる福音と神の言葉を強制的に否定させられました。彼は火刑の脅威のもとにあって、自分の考えを守ることができなかったのです。

この事件は、すぐに、キリスト者各人の心を傷めましたが、しかし、（大学当局である）彼等は大胆にも、自分たちは閣下に代わって、行動していると主張したのです。さて、ニュルンベルクのある市民がこのことに嫌悪して当事件がどのように取り扱われたか、包み隠さず記録した文書を私に送ってきたのです。私は、他の問題でも閣下がキリスト教君主として神の力を決して侵害したことはないということを知っているので、（というのは、だれも、神の言葉を禁じる権力を持たないし、また、それを支配する権利も持たないからですが）この事件についての隠された真実をで

2）　ヴィルヘルム４世（Wilhelm IV. 1493年11月13日－1550年３月７日）は、16世紀のバイエルン公（在位：1508年－1550年）。アルブレヒト４世とクニグンデ・フォン・エスターライヒの長男。一時、弟のルートヴィヒ10世とバイエルンを共同統治していた。父が長子相続を取り決めたことにより、1508年の父の死後に遺領を単独相続したが、弟のルートヴィヒ10世が共同統治を主張し、1516年にランツフート、シュトラウビングを共同統治領とした。宗教改革に初めは同情を示していたが、1522年にマルティン・ルターの著作物を禁書とする初の福音主義に抗する命令を出すと共に、カトリックに転向し、1524年には教皇クレメンス４世を支持し、ザルツブルク大司教と提携して、ドイツ対抗宗教改革の政治的リーダーとなり、ドイツ農民戦争を鎮圧した。また、ボヘミア王位を主張してハプスブルク家と対立したが、1534年、フェルディナント1世とリンツで和睦した。1545年にルートヴィヒ10世が死去したため、改めてバイエルンを単独統治することになった。シュマルカルデン戦争ではカール５世（フェルディナント１世の兄）の下で戦った。

3）　Ein Christenliche schrifft//ainer Erbarn frawen/vom〔m〕Adel//darin〔n〕sy alle Christenliche stendt//vn〔d〕obrikeyten ermant/bey der//warheyt vnnd dem wort//gottes zu bleiben vn〔d〕sol//lichs auss Christlicher//pflicht zum ernnst-//lichste〔n〕zu handt//haben.//Argula Staufferin.//M.D.XXiij.//Actuum 4.//Richtent jr selb/ obs vor got recht//sey das wir ewch meer gehorsam//sein söllen den Gott. (München:Hans Schoser 1523) 8 Bl., TE, 4°
尚、翻訳にあたって以下を参考にした。
Matheson, Peter, Argula von Grumbach. A Woman's Voice in the Reformation, Edinburgh 1995, pp.96－112
Matheson, Peter(ed.), Arugula von Grumbach: Shriften, Heidelberg, 2010, pp.76－93

きる限り簡潔に説明致したいと思います。

ただ、神の言葉だけが全ての者を支配すべきで、実にそうでなければなりません。彼等はそれをルターの言葉と呼びます。しかし、この言葉はルターの言葉ではなく、神の言葉であります。ヨハネによる福音書７章に「主は彼等の邪悪なことを彼等に証しした。このために彼等は主を憎んだ。」とあります。そして、このことは、また、ルターにも起こっています。弟子は師に勝るものではない、このことは、全ての使徒たちと、主はキリストであると告白した者全てにとって、それがルターであれ、メランヒトンであれ、だれであっても、真実なことなのです。そして、もし、悪魔が地獄から私たちに対して聖なる福音を説き明かすことが可能なら、それは、神の言葉のままであり、そうあり続けることでしょう。

パウロもまた、ガラテヤ人たちに対して「たとえ、天使が天から来て、あなたがたに福音と異なることを教えたとしたら、その天使は、呪われるがよい。」と述べています。彼らはなんの特別扱いもしませんでした。すなわち、アルザシウスは、火刑に直面して、ルターやメランヒトンの作品全てを無条件で、あるいは、否定しなければならなかったのです。しかし、マルティンがしてきたことは、ただ単に、聖書全体を聖書原典のテキストからドイツ語に翻訳することでした。もし、私が福音的で、使徒的で、預言的な書き物を否定するとしたら、それは神と神の言葉を否定したことになるのではないでしょうか？どうか、閣下の君主としての慈愛によって判断してくださいませんか？もし、閣下がこの問題について彼等によって誤って知らされてきていないのなら、私はこれが閣下の命令だったとは思いません。

この大騒ぎの発端は、まだほんの18歳の子供の事件でした！そして、彼等のうち誰も、聖書を例証にとりあげていないのですが…私は彼が彼等のためにたくさんの迫害に耐えなければならかったこと、そしてすでに三回、投獄されたことを聞きました。しかし、彼が誓いの言葉を明らかにした時に、彼等の残忍な手から、そしてまた閣下の命令によって死から彼が救われたことに感謝いたします。神は閣下に対して報われないままにはなさらないでしょう。なぜなら、正しさのための血は神を必要とするからです。

ペトロは主を三度、否定したにもかかわらず、牢獄や火刑を強いられることはありませんでした。主がこのようにペトロになさったように、この若者に対しても取り扱われるであろうと、信じています。神は罪人の死を望まれるのではなく、罪人が悔い改め、生きることを望まれます。たとえ、正しい人が、一日に七回躓いたとしても、たくさんの良いことがこの若者に起こるかもしれません。

私はまた、閣下に、彼等が言っていることを全て信じないで、むしろ、ヨハネが第一の手紙の4章で、「主はキリストであると告白する者は、神から出たものです」と言っているように、聖なる聖書に従って、霊によって試みることを懇願します。そして、そのような圧制がはびこっている時に、真実を十分良く知らせられることが確かに必要なことだと思います。実にこのことは、キリスト者皆に当てはまることです。私たちが「私は年長者達が信じたことを信じます」と言うのは、十分正しいこととは言えません。すなわち、私たちは神の存在を信じなければならないのであって、私たちの親達にではないのです。もし、古い事柄が真の信仰に役立つのなら、それではユダヤ人の信仰は最高のものになるはずでしょうから…。

イエスはマタイによる福音書10章で「人々の前で、私を知っているという者はみな、私も天の父の前でその人を知っているとする。しかし、私を知らないとする者は誰でも、わたしも天の父の前で知らないとする。」と述べ、ルカによる福音書９章では、「私と私の言葉を恥じるものはだれでも、私が栄光に輝いて来るときに、その者を恥じる。」と述べておられます。ですから、神が彼らに話してこられたことを私も知っています。神の恵みによって、私には恐れるものはありません。すなわち、それは、千回、私の首を犠牲にするでしょうが、私は、私の平安を保たなくて

もよいと思っています。

私自身ができることは、罪をおかすことです。主は、マタイによる福音書10章で「体は殺しても魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も身体も殺し、地獄へ引きずり落とす力を持っている者を恐れなさい。」と、そして「私よりも父や、母や、姉妹や、兄弟や、子を愛する者は、私にはふさわしくない。また、私よりも自分の魂、すなわち、自分の体を愛する者は誰も、私にふさわしくない。」と述べておられますから。

さて、閣下は、神の言葉を受け入れる者たちに疑うことなく敬意を払うべきです。パウロがローマの信徒への手紙13章で「敬うべき人には敬いなさい。その人たちに貢租、税、お金を与えなさい。そして、権威者に従いなさい。たとえ、悪い権威者にでも。というのは、全ての権威は神からのものであるから。」と述べています。しかし、閣下はご自分の力を誤用しないように注意してください。というのは、閣下は、私たちと同じように、福音のルールに従っているからです。なぜなら、もし人がキリスト者でありたいなら、神の言葉を禁止したり、そのような禁止に従うべきと教えてはならず、むしろ、命を喪失することさえ、教えているのですから。私たちは、使徒言行録の第4章、5章で、「人は人間よりも神に従うべきだ」と知らされています。

閣下が神の言葉を守る恵みを与えられますように…。そして、国家も人々も健康と幸福を享受できますように…。もし、閣下がなさらなければ、神はこれに対して、復讐をしないということはないでしょう。私たちは、聖なる聖書の中で、いかに神が私たちを罰してこられたか、そして天災によって私たちを罰するために脅かしているかを学んでいます。というのは、神がエルサレムやユダの国について語っておられるのは、つまりそれは、神が全ての人々に語ってこられたということですから。さて、主は私たちを敵の手に渡し、外国の主人に仕えさせ、苛酷な労役を強い、そしてまた父祖の土地から逃亡した時には、剣で殺されましたが、身体を葬ってくれる者はだれもおらず、その死体は鳥や動物のえじきになったことを告げています。そして、そのようにすることで、神は、多くの人々が減じられて少数になることを警告するのです。神は家畜を流行病や悪疫によって殺し、土壌を荒廃させ、不毛になさいます。そして飢饉を招き、父が息子を食べるとか、息子が父を食べるとかそのような異常なまで恐ろしい事態へと招きます。子供達でさえ、母親の手の中や胸で、死にます。すなわち、このことは、歴代誌下６章やイザヤ書30章と34章、バラク書２章やエゼキエル書５章と７章、ホセア書14章やそのほか聖書の多くの箇所で述べられています。神はこのように、ルターではなく、いかなる「否」を除いた、「然り」である神の言葉を語っておられます。

聖書の中に「天と地（神が言われるように）は滅びるが、しかし、私の言葉は決して滅びない」とあります。エレミヤは、哀歌4章の中で、「預言者はその女性たちのために悲しみ、とても嘆き、語る。」と述べ、また「やさしい心をもっているのに、その女性たちは自分の子供を料理し、自分の食料とした」と語り、そして祭司たちにはそのような困窮に対する責任があるのだと嘆いています。なぜなら、彼等、預言者たちは神の言葉を述べなかったからです。

閣下が神の恵みによって以上のことを真剣にお考えてくださいますように、そして、私たちの時代に生きている者に対して、彼等自身ばかりでなく、金や銀ではないが価値ある贖いの赤いバラの血の、高い代価を払われた主イエス・キリストの民にも、永久の滅びをもたらすことがありませんように。というのは、神はエゼキエル書13章で「彼等はひとにぎりの大麦とひとかけらのパンの故に、死ぬべきではない者を殺し、生きるべきでない者を生かしている。そして、彼等は欺きの言葉を信じる私の民を欺き、彼等自身の心の思い付きを説き明かし、平安がないのに平安だと述べる。」と述べておられるからです。

尊敬を払うべき者は逐語主義ではなく、神の霊のうちにあって神の言葉を述べるために修養した良い説教者です。人は、そのような説教者を求めて、地の果てまで行くでしょう。

なぜなら、私たちの救いの全ては神の言葉にかかっているのですから。

神は、マタイによる福音書７章で「偽預言者を警戒しなさい。彼等は羊の皮を身にまとってあなた方のところに来るが、その内側は貪欲な狼である。」と述べています。ここでの偽預言者とは、司祭や修道士や修道女を指し示しています。いったい、どんな君公が皇帝から美しくすばらしい町に強盗のためのセンターを作る権利を許可されたというのでしょうか？同様に、閣下の先祖から、あるいは公爵である閣下から、この種の許可を今まで与えられたのはどんな伯爵や領主でしょうか？主は彼等を強盗と呼びます。イザヤ書３章において「彼等は私の民を盗んできたし、彼等は女性たちに支配されてきた。」とありますように。それは神が言われたことです。それを私が言ったら、ルター派と名づけられますが。しかし、このことが、彼等が残る方法なのです。おお、神よ、なんとソドム人的な純粋さであることか！まるで一円を掴むような貧しさ！彼等はちょうど私たちがするような、肉のマントを持っています。たとえ、無花果の葉のようなマントを使って、彼等がそれをきれいにしても、それは神の目には何の役にも立ちません。もし役に立つとしたら、私たちはマントを着たいと思ったはずです。

パウロはコリントの信徒への手紙７章で、「男性はめいめい、一人の妻を持ち、また、女性はめいめい、一人の夫をもつべきである。なぜなら、情欲に身を焦がすよりも、結婚した方がましであるから。」と述べています。もし、私が貞節を約束したら、私の指で空に触れるか、あるいは、飛ぶことを約束をしたようなものでしょう。すなわち、それは、私たちの力でできるものではないのです。主はマタイによる福音書19章で「理解できるものは誰でも、受け入れなさい。」と述べておられます。この恵みは、マントを着たり、剃髪を自慢しているものすべてに与えられるのではないのです。

彼等の建物や、いっぱいになっている収納箱や台所や地下室やまた、彼等の青白い頬によって、いかに貧しいかがわかります。「あなたはまだ50歳にもならないのに、アブラハムを見た」とユダヤ人たちが言った時、やっと33歳だったキリストに起こったことは、彼等には起こりません。

閣下は何も稼がず、しかしあらゆるものをかき集めるフランシスコ修道会士たちのような会計係を持つ余裕はありません。判断するのは私ではなく、マタイによる福音書23章でのキリストです。「あなた方は不幸だ、ファリサイ派の者達、あなたたち腹黒い者達よ、やもめの家を食い物にし、見せかけの長い祈りをする。永遠なる火はあなた方のために準備されている。」とあります。私が見る限り、多くの司教座参事会員や説教者や他の大勢の者たちの基本財産は、恋人や彼等の愛人のための用意にすぎません。このことはうんざりするほど明らかなことなのです。教皇は悪魔の助言に従います。そして、彼は女性たちを妨げてきましたし、また、お金のために内妻を許してきました。

ああ、君公達よ、このことを調べてみてください。そのことがあなたがた、君公の破滅を招かないようにするために。罰するための剣は君公たちが持っていて、聖職者達ではありません。彼等の仕事は神の言葉を広めることです。神はあなたがたの目が開かれ、あなたがたの手に、神があなたに与えられた、剣を取ることを許されます。マタイによる福音書20章で言われています。「この世の支配者たちは民を支配するが、しかし、あなた方の間ではそうであってはならない。あなた方の間で最も偉いものであろうとするものはみな、最も小さいものであり、他の者皆の僕になるべきです。ちょうど、人の子が仕えられるためではなく、仕えるために来たように。」

私たちが犯している罪はこの逆になっていることです。すなわち、霊に仕える支配者や高位聖職者たちが、お金を持ち、他方、世俗の支配者達の財布は空っぽなのです。神が上記のことによって、神の怒りを私たちに送ることがないように、閣下が、ご自身のため、そして私たちのために、これを修復する道を見出してくださいますように。なぜなら、私たちはトルコ人の猛威を見ました。トルコ人

が、神が守っておられる、私たちの父祖の土地に君臨するようになるかもしれない心配の種はあります。暴行は至るところに広がっています。しかし、問題がこのように進んではならないのです。

神は君主や領主達がいわゆる霊的な支配者達によって鎖につながれたサルのように従うことを決して許しません。もし、閣下が、すべての学校と修道院や、全ての各個教会と特別教会が、税金の登録を無視するように、また地代やお金を彼等に払っている者達は地方裁判所に来るように命じられるのなら、閣下は直ちに、トルコ人たちに対抗するため、税を上げてくださいますように。そして、この方法で彼等は実際に富とは何かについて学ぶことでしょう。彼等が持ちすぎたところで、それは、貧しい人たちに対する重荷を軽減するために公的に利用すべきなのです。

不在利益獲得者による強奪を廃止してください。というのは、キリストの群たちを養うことになっている者たちが彼等自身の渇望をさえぎることがほとんど出来ないことは明らかなことです。さらに言えば、これらの地位はめったにほかの能力の者たちによって支配されないのです。彼等はバカ安で、雇われた、役立たずの愚か者だけを引き受けるのです。貧しい者の汗は悪魔の奉仕に使われているのです。

ヴォブルクの牧師である、フライベルガーは聖職禄から年に800ギルダー以上の俸給を受けて、一年に、ただ一回の説教もしていません。そして、アイヒシュテーテのベルンハルト・アルツトはどうでしょう！もし、一つの教区の俸給があまりに少なすぎるのなら、それをもっと与えてください。もし、それが多すぎるのなら、いくらかを取り上げ、それを共有財産に向けてください。その他の喜びをもたない者達（大衆のような）については、神は彼らを顧みてくださり、聖書を通して容易にそのことに気づくようにしてくださるでしょう。

もし、あなた様が、福音が貧しいものたちに説き明かされるのを見るなら、その国は詩編３篇でダビデが「千人にも恐れません」と、そしてまたイザヤ書30章では、「千人は一人の手から逃げます。」とありますように幸福と勝利で祝福されることでしょう。神の言葉が勝利するところでは皆、あなた様に従うことでしょう。逆に、神の言葉に反対する者はみな、あらゆる疫病によって、包囲されることでしょう。強制はあるべきではありません。受け入れるものたちは恵みを見出し、受け入れない者たちは、神から当然の罰に直面することでしょう。神は「これからはあなたがたはそうではなくなる。」と言っておられます。

私が、キリストの内にある私の兄弟としてあなた様に手紙を書くことを妨げるものはありません。私はこれまでに言ってきたつもりなのですが、神の霊がすべてのことを支配しますように。神は、私があなたさまの幸福を喜び、あなたさまの不幸を嘆く、私の証人であります。というのは、私の両親は二人とも５日以内に急にバタバタと亡くなりましたがその後、女性である私を、あなた様は第一保護者として見守ってくださったことを私は忘れません。そして、私は奥様の母上様の女官であったことを忘れていません。また、私が悩んでいる時、「あなたはそんなに泣いてはならない。私が、あなたの父であり、あなたの君主であると思いなさい。」というあなた様の言葉で、私はどんなに慰められたことでしょう。

私の夫も、閣下の親切により収入を得てきましたし、そして、私たちの子供も仕事や賄い付きの下宿をあなた様のご配慮で見つけることができました。私があなたさまに手紙を書かなければならないと感じたのは、私が受け取ってきましたあなた様の親切に対する私の感謝を…こういった小さな方法ではありますが…示したかったからです。聖ペトロのように、私は金も銀も持っていませんが、しかし、私は神への愛と隣人としてあなた様への愛を持っています。なぜなら、ルカによる福音書９章で神が「人はたとえ、全世界を得ても、自分の魂を失っては何の得があろうか？」と言われていますから。どうして、それを買い戻すことが出来ましょう！わたしのキリスト教徒としての務めは私が黙ることを意味す

るのではありません。ですから、私は大学へ書いたのです。私は閣下にこのコピーを同封いたします。どうぞ、これがあなたさまに対して、万が一誤って中傷している場合には、真実を私に知らせてくださってかまいません。神の恵みを持って、私は私が書いてきたものに対して責任を負わなければなりません。なぜなら、それは私の言葉ではなくて、神の言葉だからです。あなた様がそれをお心にとどめられますように。というのは、神は必ず、あなた様の手から、閣下の臣民達の魂の救いを要求するでしょうから。

どうか、閣下が、金をむさぼる人々の言っていることを信じたり、彼等の思い通りにさせることに注意なさいますように。というのは、そのことは彼等が神と争う貪欲さのためであるということは明らかなことであるからで、もちろん、むだなことなのです。私たちが神の言葉に従うのはみな、幸せなことなのです。それに耐えることが出来ないのは、ただ、司祭と修道士と修道女と行政長官と擁護者と弁護士だけです。というのは、神は「人にしてもらいたいと思うことはなんでも、あなたがたも、その人たちにしなさい。」と言われるからです。これに基づく、正義の体系は、確かに一つの評決を生じます。世代から世代へ裁判官の前で一つの裁判が行われる時、彼等によって評決が否定されることを認めてはなりません。

議論が起こったとき、あなた様は、確かに、正しい人と間違っている人を見分けられる、―裁判官は必ず、決めることが出来ましょうが―十分賢明な人たちを持っておられます。もし、すなわち、これらの地位を持つ者が、「裁判官として、主の霊が住んでいる、だれか賢明なものを選ぶ」と言うパウロの助言に従って、その条件を満たしていれば、彼は大食家、姦通者、神を冒涜する者、殺人者などと言わなかったでしょうに。神の霊はうやうやしく、慈悲深く、忍耐強く、貞節…なのですから。

法律家達の助言は、決して有益なものではないでしょう。彼等は金持ちになりました。他方、国も人々も貧しくなりました。私は、彼らのような人達を良く知っていましたし、今も知っています。４年間、赤い法冠をつけた後、自分のワインの限度を知らない者は、見えるところの全てのものを買い占めることが出来るのです。私は、彼等の法冠は決して使い尽くすことのない、あのフォルトゥナトゥス[4]の財布を持っていると確信しています。もし、彼等が彼（フォルトゥナトゥス）の帽子を持っていたら、彼等は自分が好きなところ、どこへでも旅行が出来ることでしょう。慈悲深い君主であり、領主さま、私はか弱い力を振り絞ってキリストの民が圧制されているこれらの重大な問題について、述べて参りました。

閣下が私の下手な書き物をその値するより以上に寛大に見てくださいますように。それはこの手紙が一時的問題よりも永遠なる問題になっておりますから。私は、霊をもって閣下が全てのことを理解なさいますよう願い求めます。私は神にお委ねします。神が閣下とあなた様の大事なすべての者と共に、私が書いてきたことが覆されますように。そして、神が今、あなた様と永遠に留まりますように。アーメン。ディエットフルト、聖十字架称賛の日の後の日曜日。1523年。

②『インゴルシュタット議会への書簡』

アルギュラ・フォン・グルムバッハ、旧姓フォン・シュタウフェンから、インゴルシュタットの町の高潔で賢明なる議会宛ての公開書簡[5]

私の良き友であるインゴルシュタットの町の

4） フォルトゥナトゥス（Fortunatus）は、1509年に初めて刊行された、魔法の財布のおかげで、財を成し、魔法の帽子をかぶっているときは、好きなところへ旅行できるという内容の当時人気の痛快大衆本の主人公のことである。

5） An ain Ersamen//Weysen Radt der stat//Jngolstat/ain sandt//brieff/von Fraw //Argula vo〔n〕grun//bach geborne //von Stauf//fen.// ＜Augsburg:Philipp Ulhart d. Ä. 1523＞3Bl., TE, 4° 尚、翻訳にあたって以下を参考にした。
Matheson, Peter, Argula von Grumbach. A Woman's Voice in the Reformation, Edinburgh 1995,pp.117－122
Matheson, Peter(ed.), Arugula von Grumbach:Shriften, Heidelberg, 2010, pp.94－100

高潔で慎重で賢明なる行政官と議会へ

皆様の上に、神の恵みと平安がありますように。私は皆様にキリストにあって親愛なる兄弟姉妹として心からのご挨拶を申し上げます。さて、最近、私はアルザシウス・ゼーホーファーに関することで、インゴルシュタット大学へ手紙を書く機会を持ちました。私はキリスト者としての務めゆえに、そうせざるを得なかったのです。この問題で彼等（大学側の関係者）に不利益を与えないようにと思ってきましたし、私の成した過ちを説明することも考えてきました。しかし、私の意思に反して、事件全体が広く知られるようになってきたことを聞きました。結果として、多くの人達がこの事件について私に議論を交わしてきましたし、また、私の行為と意図は大きな誤解を受けて参りました。

このことによって、個人的に自分を守りたいという思いからではなく、単に、私が書いたものによって中傷されるかもしれない人たちのために、その私の書いた物の一部を皆さんに送ることにしたのです。私は皆さんにこれを読んでもらいたいのです。疑いもなく、神の霊が私たちの教師として行動し、正しい裁きを宣告することを願っています。だから、私はそれを待ちたいのです。というのは、イザヤ書30章で、「神は裁きの主である。彼を待つものは全て祝福されよ」とありますから。私は、「キリストは、船体の身体は互いに組み合わされているところからの頭である」とパウロがエフェソの信徒への手紙4章で書いているように、私たち全ての者のただ一人の頭である、キリストのメンバーとして皆さんにこのことを要求し、勧告いたします。さて、「体はひとつ、霊はひとつ、主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべての者の父である神は唯一であって、すべてのものの上にある」と、エフェソの信徒への手紙４章の冒頭で述べられているように私たちは洗礼を通して、神に組み込まれています。

今、皆さんが洗礼の時、神に誓ったことを思い起こしてください。それは、「私は信じます。そして、悪魔の虚飾と幻想の一切を放棄します。」というものです。もし、私たちが出来る限り、神の存在を信じ、信頼するのなら、すなわち、もし、私たちが神に告白するなら（そして、神がこれをするように能力を与えられるとしたら）、その時、マタイによる福音書10章のように、神は私たちにまた、告白することでしょう。だから、キリスト者であることは、神の言葉を非難するもの達に対して私たちが出来る限り抵抗することを意味することでもあるのです。武器をもってではなく、神の言葉をもって。というのは、パウロがエフェソの信徒への手紙4章で「とりわけ、互いに、平和と愛を維持しなさい。」と述べていますから。神についてずっと研究し続けてきたのでその誓いは私のものよりも価値があるという神学者は一体、どんな神学者なのでしょうか？神の霊は彼と同様に私にも注がれています。神はヨエル書２章で「私は全ての人に私の霊を注ぐ。そして、あなた方の息子や娘たちは預言する。」と述べておられます。

ある者たちが私に非常な怒りをもって、私の命を奪うのにどういう方法が一番良いのか、と言っているのを聞きました。しかし、神によって与えられた力でなければ、私を傷つけることは出来ないことを思います。神は、そのお名前によって私の安全を保ってくださいます。パウロはコリントの信徒への手紙二４章で「私たちは主のお名前のために、全てのことに苦しんでいても不平は言いません。」と言い、詩編３篇には「私は多くのことに恐れません。」とあり、イザヤ書30章では「一人の人は千人を震えさせる。」とあります。主が、イザヤ書43章で「彼等を恐れるな。私はあなたとともにいて、私なしでは救いはないのだから。」と、またイザヤ書51章で、「私はあなたをなぐさめるもの。あなたは、それでは、だれですか。草のような死ぬべき者を恐れるのなら。」などの聖書の言葉に耳を傾けてください。

ヨハネによる福音書９章に「ユダヤ人たちはすでに話し合っていた。そして、キリストに告白する者は誰も教会から破門し追い出すことに同意していた。」とあります。悲しいことに、これは、本当に皆さんの学者達が行っ

たことです。つまり、それはゼーホーファーに誓いの言葉を言わせて、聖なるキリスト者の教会を、包括的に神の目を意識せず、その面目をつぶしてきた、ローマ教会に置き換えることを示した時に、です。彼等が圧力を持って平和を得てきたのは、彼等の主張としつこさで、私たちの君公達にそのような暴力を使うことを強いたことによるものだと思います。彼等は、「私たちは、それに従えば、彼は死ななければならない、という法を持っています。」とユダヤ人たちがピラトに言ったのと同じような言葉を発します。

もし彼等が今すぐ、私を殺さなければならないのでしたら、彼等が得たいものは何かを知りたいものです。恐らく、法的免除を信じ、秘密に与えられる司法権を得たいのだと思います。というのは、それは全く、彼等に悪くないことですから。それで、神のお名前において、もし、キリスト者がこの町で殉教するとしたら、彼等はちょうど、エルサレムに起こったことのようであり、私は神の御心により頼みます。しかし、彼等によって神について教え導かれてきた皆さんに、同じ罰を押し付けたりはなさらないことを祈ります。なぜなら、主が「父、母、兄弟、姉妹、子供たち、世のよきもの、命あるもの、これらを見放さない者は、私にふさわしくない」とマタイによる福音書10章で言っておられますように、私たちはすべてを見放さなければならないからです。たとえ、私がもう死んだとしても、神の言葉は決して拭い去ることは出来ません。というのは、それは永遠にとどまるものであるからです。

私はまた、もし、私が神のお名前のために、死ぬ恵みを与えられるのなら、多くの心の目を覚ますことができるだろうと確信しています。そうです。私は自分自身について、書いてきましたので、百人の女性達が私に続いて彼等に反対して書くことでしょう。というのは、私よりも有能で、良く理解している者が多くいるからです。結果として、彼女等は「女性のための学派」と十分、呼ばれるに至るかもしれません。私は彼女たちのうちの多くが、ニコデモのように、キリストに告白することを恐れている、神の隠れた弟子であるということに疑いを持っていません。しかしながら、これで十分ではありません。「キリストを思うことと、私たちが他の人の前で彼に告白してきたことを意味することとちがう」と、マタイによる福音書10章で言われていますように、私たちは、公けに告白しなければなりません。神が彼女たちに勇敢なる魂を与えてくださいますように切に祈ります。

どうか、私について言われてきたことを中傷しないで下さい。私個人に関する限りは、彼等の迫害に何の注意も払いません。聖なる福音のためにののしられることは私にとって、喜びであります。神は彼等学者たちを許され、他方、彼等は自分がしていることがわからないのです。私は、神が彼等を教化してくださることを心から祈り、また、皆さんは彼等と心が頑なな者達のためにお祈りくださいますように。神が「これらの民は神を怒らせる。というのは、彼等は神の言葉を聞かず、先見者たちに『見るな』と言う。」と、イザヤ書30章で、言われているのをお聞きください。そしてエレミヤ書10章で、「羊飼い達は、愚かなふるまいをし、彼等は主を求めない。だから、彼等は何も理解せず、彼等の群れの全ては、破壊される。」とあり、またエレミヤ書23章で、「あなた方は生ける神の言葉を曲解してきたし重荷を負わせてきた。そして、あなた達に、決して取り去ることができない永久のはずかしめを与えよう。」とあります。

また、使徒言行録15章で、ペトロは「あなたがたは、先祖も私たちも負いきれなかった重荷を、あえて、私たちに与えようとするのです。しかし、私たちは、私たちの先祖が信じたように、神の恵みを通して救われると信じています。」と述べています。神は他にも言っておられます。エレミヤ書23章で、「説教者たちや預言者達の言葉を聞いてはならない。彼等はあなたがたを惑わし、神の口からではなく、彼等自身の思いからの幻を語るのである。」とそして、エレミヤ書50章で、「私の民は道に迷った一つの群れである。彼等の羊飼い達は彼等を迷わせる。」とあります。ですから、そのような説教に出席しない方が

良いのです。マタイによる福音書７章や13章では、キリストは、私たちに、キリストがまずいパン種と呼び、また、少ないイーストが多くのパン種をだめにすると述べている、ファリサイ派の教えに、気をつけるようにと警告されておられます。同じ方法で、小さくても誤った教えは、害がありますし、多くの悪を生じます。ですから、キリストのうちにある私の親友たちや兄弟姉妹達よ、あなた方が彼等とともに滅びないように注意してください。神の恵みが、あなた方に賜りますように。私は、皆様に、体と魂と、良き名前と善なることを神にお委ねいたします。私が皆様のことを神に祈るように、どうか、皆様も私のことを神に祈ってくださいますように。

1523年、シモンとユダの夜に、グルムバッハ
アルギュラ・フォン・グルムバッハ、旧姓フォン・シュタウフェン

③『フリードリヒ賢公宛ての書簡』

私の最も敬愛する、ザクセンの公爵で、神聖ローマ帝国の最高元帥であり選定候で、チューリンゲンの伯爵で、マイセンの辺境伯である、高貴な君主、フリードリヒ賢公[6]閣下へ

アルギュラ・フォン・シュタウフェンより[7]

神の恵みと平安が選定候様とともに永遠にありますように―これは私の心からの願いでございます。最も敬虔なる君侯様、私は閣下に書かざるを得ませんでした。なぜなら、私はこれまで召集されてきた帝国議会に期待してきたからです。今、貧しく苦しんでいる者達に神の言葉を宣べ伝えようとする者からその機会を奪ったり、キリストを改めて迫害し苦しめたりしている異教徒の司祭たちの嘆かわしい行為を終わらせて、再び神の言葉が聴かれるために、私は全能なる神が議会においてその議事進行を導き、そして議会に参加する者全てが恵みと知恵と勇気を賜ってそれに臨むことを信じる者です。

閣下が神の助けに支えられ、神の確かな言葉によってお気持ちが堅固に保たれますように願います。というのは、このことは本当に正しいことでありますから。私たちはマタイによる福音書10章で言われているように、常に、神を公けに表わす用意をしなければなりません。神に敬意を払われながら、これまで示してこられたように、しっかりとしたご意志をもっておられる閣下は、キリスト者としての自信を堅く持って、彼等に臆せず立ち向かわれることを希望し、神へ祈ります。神はイザヤ書51章で「わたしこそ、あなたがたを慰めるもの。単に死ぬべき者をなぜ、あなたは恐れるのか？」と述べておられます。彼等はイザヤ書28章や詩編11篇にありますように、無力な者たちです。「私は救いを人々にもたらす。それで、彼等は彼等の反対者たちに自信を持って、抵抗することが出来る。」とあ

6）Friedrich der Weise（1463-1525）宗教改革時代のドイツのザクセン選帝侯（位1486－1525）エルネスト系の出でヴィッティン家のアルブレヒトと共同でザクセンを統治し、弟ヨハン一世（賢忍公）と共に選帝侯領を治めた。敬虔と賢明をもって知られた。1502年ヴィッテンベルク大学を創設、のちにルター、メランヒトンらによって宗教改革の中心となった。デューラーや領内に定住したクラナッハを重用し芸術的な貢献もした。皇帝マクシミリアン一世に仕え、皇帝に推挙されたが辞退し、マクシミリアンの孫を推して皇帝カール五世を誕生させた。忠実なカトリック信徒で長年ヴィッテンベルクに聖遺物の収集をし、それによる贖宥は城教会と大学の財政を助けた。しかし、ローマの経済に吸い取られる贖宥には反対で、宮廷牧師シュパラティーンの助けもあって宗教改革を起こしたルターを保護し、その係争がドイツ国内で取りあげられて、彼の身の安全が図られるようにした。ルターが追放刑で法の保護外におかれると、自分の居城ヴァルトブルクにルターをかくまって保護し、実際的に宗教改革を可能にするため大きな力となった。直接的の交流はなく、ルターとの連絡はシュパラティーンによってなされた。農民戦争の最中に病没したが臨終に、際して初めて二種陪餐を受け、ルター派に改宗した。葬儀にはルターが説教した。

7）Dem Durchleüchtigisten Hoch//gebornen Fürsten vnd herren/Herr〔e〕n Fri=//derichen Hertzogen zu Sachssen/Des//hayligen Römischen Reychs Ertz=//marschalck vnnd Churfürsten/ //Landtgrauen in Düringen/ //vnnd Marggrauen zu//Meyssen/ ＜Augsburg: Philipp Ulhart d.Ä. 1523＞3Bl., 4°尚、翻訳にあたって以下を参考にした。
Matheson, Peter, Argula von Grumbach. A Woman's Voice in the Reformation, Edinburgh 1995,pp.129－134
Matheson, Peter(ed.), Arugula von Grumbach:Shriften, Heidelberg, 2010, pp.108－114

りますように。私たちは既にこの救いを見て、神を誉め称え、私たちは全力をそそげるのです。

閣下、彼等に好きなだけ嵐を起こさせ、激怒させてください。彼等には力がありません。岩は彼等にあたり、そして大地に投げられることでしょう。それは彼等にとって落とし穴となるのです。しかし、信じる者にとっては、「私は選ばれた尊いかなめ石をシオンにおく。これを信じる者は、決して、失望しない。」と、ペトロの手紙二２章で言われていますように、よみがえりと大きな価値のある石になることでしょう。他方、愚かな彼等は失望をするのです。というのは、彼等は全く何も語ることも、書くことも出来ないからです。

閣下が、彼等がキリストに反対して歯軋りしても注意を決して払いませんように。それは全ての力が彼等から奪われてきたからです。詩編139編で「彼等は舌を蛇のように鋭くしています。」とあります。しかし、彼等のふざけた行為は子供達がゲームで使う矢のように害のないものです。同じ方法で、イザヤ書８章で「あなたがたは武器と人とを集めなさい。しかし、おののきなさい。諸国民よ、聞きなさい。あなたがたは、武装しなさい。しかし、おののきなさい。あなた方は戦闘で自分を守っても良い。しかし、おののきなさい。戦略を練りなさい。完全に論駁するように。あなたの意見をとうとうと論じなさい。それは失敗に終わるであろう。神は私たちとともにおられるから。」とあります。

閣下は、彼等が完全な権威を持って神々のように振る舞っても、寛大さをもって神が彼等を許してくださったことを考慮なさいますように。彼らが自分の権威を忌み嫌って以来、いかに多く神が彼らを女性に支配させてきたことか。ですから、閣下が神の言葉から彼等に語ってくださいますように。背後に権力をもって、敢然と抗して彼らの前に立たれますように。というのは、エレミヤ書１章で述べられていますように、閣下には、そのポットが既に沸騰しているのが見えているはずですから。そして、夜中に神に直面している彼等にはそれを消す力がないのですから。

私は昨晩、ヨハン公[8]とも話しました。もし、他の君公たちが私の話を聞くためにおられましたら、喜んでたくさんのお話をしたでしょうに。お望みなら、私はいつでも、恐れずに彼等と顔と顔を合わせてお会いしたいと思います。神はそのことを喜ばれることでしょうから。願わくは、閣下が健やかであられますように、そして神の摂理によって閣下の保護の下、ご領土内において神の言葉がくまなく宣べ伝えられ、人々が再びキリストをしっかりと受け止め、そのことによって一人一人の魂が救われますように。全能なる神の祝福が、閣下の下に今も、そして、永遠にありますように。

1523年聖アンドリュースの主日の後の火曜日。

選定候の卑しい僕である

アルギュラ・フォン・グルムバッハ　旧姓フォン・シュタウフ

8）　Johann Ⅰ（1468－1532）宗教改革に支持に慎重だった兄フリードリヒ賢公の後を継いで農民戦争の最中に選帝侯となった。ルターの訴えもあって教会巡察を開始し、宗教改革の教会の組織化を進め領邦君主制教会への道を開いた。ルターの信仰指導のもとで1530年アウグスブルク国会の際の信仰告白起草、提出に指導的な役割を果たし、この署名者のひとりとなった。プロテスタント諸侯の同盟としてのシュマルカルデン同盟の成立（1531）にも大きく貢献した。